

なお、木簡の釈読については、秋田大学教授新野直吉氏、東北大学助教授今泉隆雄氏、奈良国立文化財研究所寺崎保広氏の御教示を得た。

(山崎文幸)

(5)

・	「	飯	力
□	□	一斗	□
□	□	□	□
□	□	飯	
□	□	丸子部	□
□	□	稻一	□
□	□	飯	飯
□	□	飯	冊
□	□	飯	力

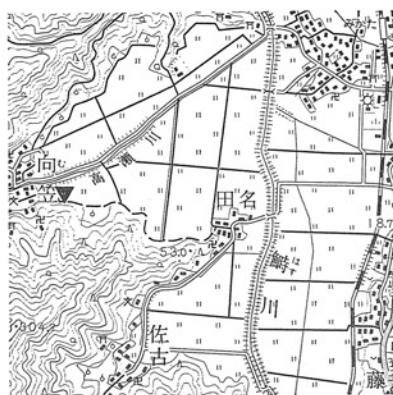
人拾捌 男六人 合物陸種
女十二人

津守部
日置子
倉刀自カ

継人
物部子

不カ
部

嶋

[illegible]

(西 津)

状地に営まれた遺跡で、標高約二・〇kmには、高瀬川と合流する鱒川が北流している。周辺には、縄文時代から平安時代の遺跡が点在している。東方約一・五kmには、「若狭国三方郡能登里中臣廣足一斗……」と記された付札木簡及び「西家」等の墨書土器が出土し官衙跡と考えられる田名遺跡が所在

福井・かどや角谷遺跡

- 1 所在地 福井県三方郡三方町向笠
- 2 調査期間 一九八八年(昭63)三月、五月～六月
- 3 発掘機関 三方町教育委員会
- 4 調査担当者 田辺常博
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 三世紀末～一〇世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

角谷遺跡は、三方町東部の高瀬川扇状地に営まれた遺跡で、標高

二二〜二三mの微高地に位置し、北東約二・〇kmには、高瀬川と合

流する鱒川はすが北流している。

周辺には、縄文時代から平安時代の遺跡が点在してい

る。東方約一・五kmには、

「若狭国三方郡能登里中臣

廣足一斗……」と記された

付札木簡及び「西家」等の

墨書土器が出土し官衙跡と

考えられる田名遺跡が所在